

新設◎教育課程

大学院共同教育課程/大学院保健衛生学研究科 共同災害看護学専攻

国内初、国公立5大学の大学院共同教育課程で
災害看護分野の国際的なリーダーを育成大学院保健衛生学研究科長
井上智子教授大学院保健衛生学研究科 共同災害看護学専攻 専任教員
佐々木吉子准教授

地震や台風などの自然災害、紛争やテロなどの人為災害、さらに感染症の蔓延など不測の事態に対して、災害医療や災害看護の在り方が重要な課題となっている。災害は、多数の集団に対して被害が及ぶため規模も大きく、通常の医療体制では対処しきれないことが多い。そのため災害時の看護活動は、独自の知識や技術が求められることに加え、他の分野との協力や、刻々と変化する災害状況への対応などが必須となる。

日本国内の看護系大学院は現在 136 校。災害看護教育は 1995 年に発生した阪神・淡路大震災を機に各大学で開始されてきた。しかし、2011 年に発生した東日本大震災のように、地震、津波、さらに原発事故が複雑に絡んだ災害に対しては、従来の災害看護の枠組みでは十分な支援を提供できないことも明らかとなった。大学院保健衛生学研究科の井上智子研究科長は次のように説明する。

「震災の直後から多くの看護師が現地へ行き、健康増進や疾病予防などの看護活動を行っています。しかし、災害看護にあたっては分野横断的な課題も多く、様々な職種の中で意思決定ができる、リーダーシップを備えた看護師の存在が改めて求められるようになったのです」

このような課題に応えるべく複数大学による大学院共同教育課程「共同災害看護学専攻」が開設された。高知県立大学、兵庫県立大学、日本赤十字看護大学、千葉大学、東京医科歯科大学の5つの大学が連携して教育研究を行う国内初の取り組みだ。

「この共同教育課程は、2012 年度文部科学省博士課程教育リーディングプログラムに採択された『災害看護グローバルリーダー養成プログラム』に基づいています。高知県立大学が統括大学院となり、4つの大学院と共同教育課程を構築して看護領域のリーダーを育成します」（井上研究科長）

この専攻の特徴は、災害看護の数多くの課題に対応できるよう、看護系大学院の特色ある大学同士が横断的に教育研究を行う点だ。日本で最初の4年制看護大学である高知県立大学が核となり、阪神・淡路大震災の対応を基に看護師の災害支援システムを構築した兵庫県立大学、国内外への赤十字救

護班の派遣や災害救護など多くの実績や経験を持つ日本赤十字看護大学、国立大学で唯一の看護学部を有する千葉大学、さらに看護学や検査学の分野では国内で初めて重点化された大学院を有する東京医科歯科大学が互いに連携する。

教育課程では、5年間を通して実践的な演習を行う。1～2年次は、健康調査や健康支援の企画・実施、災害拠点病院や自治体との共同研究に参画するなどの実習を行う。3～5年次では、企業や行政機関との共同研究やインターンシップ制度、RA（リサーチアシスタント）制度などが取り入れられる。

オンラインによる教育環境も整備しながら教育体制を構築している。同専攻の専任教員を務める佐々木吉子准教授は次のように説明する。

「兵庫県立大学にはシミュレーションラボが設置されます。5大学間のシミュレーション教育と教育方法の開発や、それぞれの大学が持つ国際的なネットワークも活かしながら国内外への災害看護学の普及に取り組む計画です」

このプログラムに対しては、東京医科歯科大学も全学で支援する体制だ。共同災害看護学専攻の開設を機に、大学院保健衛生学研究科を2014年度から改組予定。従来の総合保健看護学専攻を5年一貫制博士課程「看護先進科学専攻」に改組する。大学院教育と災害看護学の新たな変革モデルを提示するとともに、全国に波及しながら看護人材育成を加速させていくことに期待が寄せられている。

国公立の学際、災害看護をリードする5大学が互いに補完

